



駿
河
塗
り
の
下
駄
張
り

Geta craftsmans Exhibition

協力：静岡塗下駄工業組合・静岡木製はきもの張加飾組合

後援：静岡特産工業協会 公益財団法人静岡産業振興協会

2023.09.15 FRI - 2023.10.22 SUN

開館時間 10:00-19:00

(ご入場は閉館の30分前まで)

9/18(月・祝)営業・翌9/19(火)休業



匠宿伝統工芸館

TAKUMISHUKU TRADITIONAL CRAFTS MUSEUM

<https://takumishuku.jp>

静岡の工芸品・下駄を彩り続ける二人展

下駄の歴史は邪馬台国以前に遡るとされています。

その時代に水田・深田の耕作に使われていたと思われる「田下駄」という道具が発見されていて、これが下駄の始まりと言われています。足の保護や水田・湿地での沈み込みを防ぐため使われたとみられるこの道具は、日本では弥生時代の登呂遺跡(静岡県)からも出土しています。

下駄は江戸時代になって武士・町民の履物として普及し、特に東海道を行く旅人の必需品として重宝されました。

明治時代になると、時代に合わせて様々な趣向を凝らした下駄が作られるようになります。静岡では、漆塗りを施す「駿河塗下駄」と、下駄の表面に柎経木(まさきょうぎ・極薄の桐板)を張る「駿河張下駄」という、二種類の加飾下駄が誕生。以降日本の暮らしを支えています。

今回は駿河塗下駄の静岡市伝統工芸技術修士である佐野成三郎氏と、駿河張下駄の静岡市伝統工芸技術修士である丸山宗孝氏による二人展。駿河下駄、塗りと張り。異なる技術から彩られた美しい下駄をぜひご覧下さい。



駿河塗下駄 下駄塗師 現代の名工(卓越した技能者)

佐野 成三郎

昭和28年、卒業と同時に叔父・佐野悦朗氏に弟子入りし、漆塗り以外の塗装を2年間修行する。修行後、自宅に戻り家業であった漆塗下駄の仕事に入った。仕事は父・満寿司氏に習うとともに夜間には静岡木漆技術者共同養成所や静岡市が開催していた静岡市伝統工芸技術保存講習会(漆工の部)に参加。そこで、静岡の各種変り塗り技法を習得した。氏の作品は芸術性も高く、静岡市主催のクラフト展や産業工芸展で何度となく上位賞を受賞し、その腕の確かさを証明している。特に彫りと塗りを応用した「香雅彫り」や、静岡で唯一の「沈金彫り」を得意とし、業界の第一人者である。

静岡塗下駄工業組合では昭和58年から理事を務め、平成12年度から理事長として組合運営に尽力している。



駿河張下駄 張下駄師 静岡県優秀技能者

丸山 宗孝

昭和35年、卒業と同時に父・兼吉氏に師事。家業である桐下駄焼加工業に従事する。父と共に桐の木目を生かす木目焼を開発し、地元業界を先導した。その後、天面に紙布を切り貼りする紙布張を施した張下駄に重点をおき、技術向上に精進し張下駄業界をリードした。氏は焼下駄から張下駄まで幅広く製作し、その作品は幾何学的なものから優美なものまで造形美に溢れ評価も高い。

静岡木製はきもの新作品展や静岡伝統産業工芸展等での度重なる入賞歴が、それを雄弁に物語っている。

地元の業界団体である静岡木製はきもの張加飾組合を長年にわたりリードし、平成18年、「駿河張下駄」を静岡県郷土工芸品指定へと漕ぎ着けた業績は顕著である。

匠宿伝統工芸館

〒421-0103 静岡県静岡市駿河区丸子 3240-1 駿府の工房 匠宿内
TEL:054-256-1521 営業時間 10:00~19:00 <月曜休館> 駐車場227台無料



駿府の工房 匠宿は、国内最大級の工芸体験施設。

駿府の工房 匠宿は、静岡に今も大切に伝わる駿河竹千筋細工・和染木工・漆塗・陶芸などのさまざまな工芸体験を楽しんでいただけます。ここ匠宿で、是非かけがえのないものづくり体験をお楽しみください。

匠宿 | TRADITIONAL
HAND CRAFT
ARTS CENTER

